

『一億人の英文法』 PART 5, Chapter 16 Section 1～4 (p.543-564)

「時表現」… 「現在」、「過去」と、それぞれの「進行」と「完了」の6つが基本。

### Section 1 時のない文

(1) ( ) me!

キスして!

(2) I ( ) that the money ( ) spent on library books.

そのお金は図書館の本購入に使われるよう提案します。

#### ■ (1) 命令文

- 命令文で動詞原形が使われる理由は、その内容が現在や過去の事実ではない、つまり、まだ起こっていないためであり、現在形や過去形を使うことができないからである。

#### ■ (2) 願望・要求・提案などをあらわす節

- that 節内の動詞が原形である理由は、命令文と同様に願望・要求・提案などはいずれも実現していないことを述べる表現であり、「事実ではない」からである。
- should を入れることも可能であり、入れると「～すべき」のニュアンスが強くなる。

### Section 2 現在形

(1) I ( ) 3 languages.

私は3つの言語を知っています。

(2) My Dad ( ) the commuter train into the city.

僕の父は街に行くのに通勤電車を使っているよ。

(3) I ( ) chocolate crepes.

僕、チョコレートクレープが大好きなんだ。

(4) I ( ) I won't be late again.

二度と遅刻しないよ、約束する。

(5) ( ) ( ) the bus. Hurry!

バスがきた。急げ!

(6) ( ) you ( ) at the hotel, please give me a call.

ホテルに着いたら、私に電話をいただけますか。

#### ■ (1) 現在を含め広く成り立つ状況

- 広く安定した状況に包まれる一体感と共に使われ、広く安定した状況をあらわす。
- 学術論文では常に成り立つ真理を追究するため、現在形が多用される。

■ (2) 現在の習慣

- 現在を含め長い期間成り立っている習慣をあらわす。

※ 現在形と現在進行形のニュアンスの違い(1)

(A) What are you doing? ( )

(B) What do you do? ( )

◆現在形は進行形よりもはるかに広い時間幅を意識した表現

■ (3) 思考・感情

- 今抱いている思考・感情は「現在形」であらわす。内側から思考や感情との一体感。

■ (4) 宣言

- ことばと同時並行で行為が行われる一体感。  
➤ この例文の場合「約束」という行為がことばと同時並行で行われている。

■ (5) 実演(今まさに展開していく状況)

- 目の前で現在刻々と展開している状況は現在形であらわされる。  
➤ ことばとできごとが同時進行している一体感が意識されている。  
➤ 道案内も自分がその道を進んでいる様を思い描きながらするので、現在形を用いる。

■ (6) 現在形、その他のポイント

- 時や条件をあらわす修飾節は、未来のことであっても意識の中では「今起こっている」ものとしてとらえているため現在形を用いる。

### Section 3 過去形

(1) I ( hope / hoped ) you could lend me some money.

お金をいくらか貸していただけるといいのですが。

⇒ I ( hope / hoped ) you can lend some money.

お金をいくらか貸してくれるといいんだけど。

(2) I ( ) have a quick drink with Terry on my way home.

うちに帰る途中テリーとひよっとすると一杯やるかもしれないなあ。

(3) I wish I ( ) a girlfriend.

彼女がいたらなあ。

- 過去形は「過去のできごと・状態」をあらわす形で、いつも距離感が意識されている。  
➤ できごとを「遠いもの」「今と切り離されたもの」としてとらえるのが過去形の特徴。

■ (1) 丁寧表現

- 距離をとる意識が過去形の使用につながり、丁寧表現として機能する。
- ここでは、**hoped** は「望んでいた」という意味にはならず、距離感を出している。**hope** を用いると、聞き手に重圧がかかり、厚かましさが出てしまう。

■ (2) 控えめな過去の助動詞

- 過去のもつ距離感によって、助動詞を過去にすると控えめな表現になり、助動詞が本来もつ意味合いから「退いた」弱い表現になる。
- **may** の場合はおよそ 50%をあらわすのに対し、**might** は約 30%以下の感触である。
- 助動詞の過去を用いることで、以下のような控えめな表現ができる。

(A) This area of town **can / could** be dangerous at night. 【潜在的な性質】

街のこのエリアは夜になると危ないこともある / あるかもなあ。

(B) Bungee jumping is a real buzz. I **won't / wouldn't** do it though. 【意志】

バンジージャンプはホントに面白い。だけど僕は絶対やらない / やらないだろうな。

(C) **May / Might** I suggest a quieter place? 【許可】

もう少し静かな場所にしましょうか？

■ (3) 仮定法

- 「可能性が低い・事実と反している」と思っていることを示す形で、「(今)彼女がいたら」と現在のことを言っているが、**had**(過去形)を使うことでニュアンスが生まれる。
- 過去形のもつ距離感から「現実からの乖離(非現実感)」が生まれる表現。

Section 4 進行形(**be + -ing**)

(1) My parents ( often holiday / are holidaying ) in Kenya.

両親はケニアで休暇を過ごしています。

(2) Which team ( ) you ( support / supporting )?

どちらのチームを応援してる？

⇒ Which team ( ) you ( support / supporting )?

どちらのチームのファン？

(3a) The bus was stopping.

バスは ( )。

(3b) She was coughing.

彼女は ( )。

(4) My mother ( ) ( ) ( ) about something or other.

うちのかあさん、いつも何かを心配ばかりしてるんだよ。

■ (1) 躍動的な状況の描写

➤ 進行形は「～しているところ・～しています」という躍動的なできごとの描写である。

■ (2) 短期間

➤ 広く安定した状況をあらわす現在形に比べ、一時的なニュアンスが付け加わる。  
➤ 進行形では「今どちらを応援しているの？」と今現在のことを尋ねているのに対して、  
現在形では「普段はどちらを応援しているの」と長い期間を問題にしている。

■ (3) 動詞との相性

➤ 状態の移行をあらわす動詞と進行形の組み合わせは「～しかけている」のニュアンス。  
➤ (3a)では stop が進行形で用いられているため、「動→静」の途中をあらわす。  
➤ (3b)の進行形は「～している最中」を示し、短いながらも時間幅が想定される。  
➤ cough / hiccup / nod などの瞬間的な動作を意味する単語が入ると「繰り返し」の意味が生じる。過去形だと日本語同様に一回限りの動作をあらわす。

■ (4) 進行形・その他の表現効果：～してばかりいる

➤ 進行形が always や constantly などの強調をあらわす単語と組み合わせると「いつも～してばかりいる」という意味になる。  
➤ うんざり感が出る。

※ 現在形と現在進行形のニュアンスの違い(2)

(A) Look, I apologize. ( )

(B) Hey, I'm apologizing. ( )

◆進行形は、現在行っていることを客観的に外側から描写する形。

※ 進行形の可否

➤ 躍動感があるかどうかで進行形の可否が決まる。(動詞によって決まるわけではない。)

(A) I'm seeing the sea. ( ○ / × )

(B) My wife is seeing someone. ( ○ / × )

(C) John is being selfish — as usual. ( ○ / × )

➤ (A)の see は「目に入ってくる」という意味なので動きが感じられないので×。  
➤ ただし(B)の進行形の see は「～と付き合っている」という意味になるので○。  
➤ 「ジョンは自己中心的に振る舞っている。いつものように。」という意味なので○。  
“John is selfish.”とは全く違い、利己的な振る舞いをしているという躍動的な描写。